



伊吹もぐさの老舗  
創業明治28年

# 山正新聞

発行No: 第23-1号  
発行月: 2005年1月  
発行責任者  
株式会社山正



Tel 0749-74-0330  
Fax 0749-74-0466  
E-mail  
[info@moxa.net](mailto:info@moxa.net)  
URL:  
<http://www.moxa.net>  
隔月発行

## 謹賀新年



### 新年を迎えて

株式会社山正  
代表取締役 押谷小助

新年あけまして

おめでとうございます。

輝かし新年を迎え、皆様方におかれましてはますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。平素は弊社製品をご愛顧賜り誠にありがとうございます。お陰様で昨年十二月にもぐさ工場を併設した新社屋も完成し、本年はまさしく新しいスタートを切りました。本年はもぐさ工場も新しくなり、気持ちも新たに、物づくりの原点である「品質第一主義」、メーカーとして忘れてはならない、この「品質第一」に第一に掲げ、皆様に必ずや満足いただける商品・満足いただけるサービスを追求して参ります。

新しい山正のスタートを切るにあたり社員一丸となり、この「品質第一」のため邁進してまいります。今後とも何卒よろしくお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

平成十七年一月

### 新社屋完成しました。

かねてより念願でありましたもぐさ工場併設の新社屋が完成いたしました。

今まで、本社ともぐさ生産工場が離れており利便を欠いており、お客様には大変ご迷惑をおかけしておりましたが、この度、新社屋が完成し、昨年十二月一日より稼働することができました。今後は製造・配送の迅速は勿論のこと、新工場稼働により必ずや皆様に満足いただける商品作りができることを確信しております。これもひとえに皆様のお陰によるものと深く感謝しております。これを機会に社員一同決意を新たに、社業発展に努めます。何卒よろしくお願ひ致します。



(看板の向こう側に見えるのが伊吹山です)



## 12/1 もぐさ工場併設し、新社屋完成



### もぐさ工場 只今、フル稼働 操業中です!

この新しいもぐさ工場には、既存の生産設備に加え、品質安定を目指し、唐箕(とうみ)も一基増設し、生産するもぐさのグレードに合わせて唐箕を使い分けることができるようになりました。また、本紙七月号で紹介しましたネパールのもぐさ工場で日本から派遣されたことのある吉田氏に依頼し、「長とうし」も新設しました。同時に製造時に発生する粉塵も集じん機により徹底的に除去することができました。



(既存の二基から一基増基した唐箕)

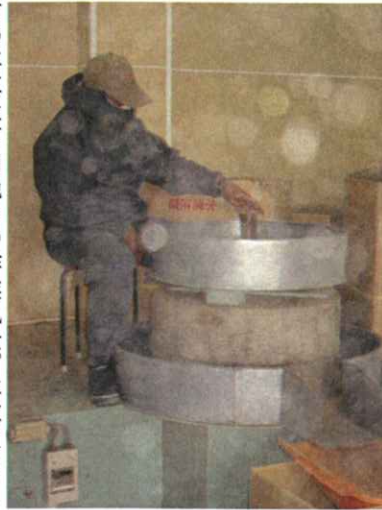


(粉塵を除去する大型集じん機)

# ネパールよりもぐさ生産研修2名来社。11/24~1/9

**とくろで** 右の写真の作業者は、ネパールのもぐさ工場から研修に日本にやってきたイスワル・ラジャ・バラミ君。ネパールにもぐさ工場ができたことは七月号でご紹介しましたが、そのもぐさ工場から研修生2名を受入れ、現在、弊社の製造方法や生産設備の構造などを勉強中。ネパールに戻ってから、ネパール産ヒマラヤ印のもぐさの生産に、今回修得した技術を生かしてくれらると思えます。今回来日のイスワル君は弊社でもぐさ生産の研修は3度目ですが、ネパールのもぐさの会で活躍中。しかもネパール東洋医学専門学校を卒業し、現地で鍼灸師としても治療活動をされています。もう一人の

右の写真は石臼挽きの作業風景。写真に白く写る点のようなものが空気中に舞う粉塵。(集じん機を運転していない状態)かなりの粉塵が空気中に舞っている様子が判ると思います。



(前頁からの続き)

製造設備が新しくなっても、集じん機で快適な生産ができるようになって、山正の伊吹もぐさ製造方法は変わりません。変えませんが、頑固なまでに家伝秘法。製造方法は守り続けます。

**ネパール王国・よもぎ物語その4**  
ヒマラヤの嶺にお灸のけむり 会長押谷幸治郎  
ホテルを出て、かれこれ三時間ほど経った頃から道は細くなり、舗装の無い荒れ果てた山道にかかったかと思うと道案内のタマンさんから「皆さん、ここからはこの上の山に一時間ほど登った所が私の家です。」と告げられると、それからは本当に急なデコボコ道で狭い山道となり、まさにサバイバルロードさながらの悪路の連続でジープのエンジンも悲鳴を上げる状況でした。でも散在する民家と菜の花畑の中から、裸足の幼い子供達が車の音を聞いて「ハロー・ハロー」とピースをしながら駆け寄ってきます。色は浅黒いがパッチリとした瞳、人懐こい微笑み私たちが一行も思わず車を止めて日本から持参したあり合わせの飴やボールペンなどをあげました。写真を撮りながら沙羅双樹の生い茂る山道をほぼ中間地点と思われるまで登って来ました。やがて樹木の道も切れて眼下には一面の山並みの延々と続く広大なクレーションが目に飛び込んできました。

ネパールに戻られてから鍼灸活動で活躍されることを期待しています。今後も山正はネパールのもぐさの会を応援して参ります。  
**そんなネパールとの繋がりのきっかけとなった弊社会長のネパール探訪記も今号で完結となりました。**



左：イスワル君 右：アシヨック君

研修生はアシヨック君。よもぎの会で会計係をされています。アシヨック君は5ヶ国語を話せる優秀な方です。

そして遙か彼方の頂上と思われる地点に、菩提樹の巨木がそびえており、その横に学校のような建物が目に入りました。するとタマンさんが「あれが頂上です。もうすぐです。」と聞き、一行は最後の力を振り絞って、やっと菩提樹の木の下までたどり着きました。樹の下には村人たちが大勢集まって口々に「ナマステ・ナマステ」と歓迎の挨拶をしてくれました。とりあえず一行は早朝からの疲れと空腹に、ここから更に一〇〇メートルほど先のタマンさんの家に到着。青空の庭に設置されたにわか作りの食卓に、ネパール特有のスパイスの効いたカレーライスでお腹を満たし、明るいうちにホテルに帰らないといけないと言う事で、草々にヨモギの自生している溪谷にタマンさんの長男と云われる方に案内して頂きました。何と言っても今は時期的に乾期で、多年草のヨモギとはいえず、ヨモギの葉も殆どが枯れて茶褐色となっていました。わずかに谷底の藪の中はまだ枯れずに残っている青々としたヨモギを見つけ、その葉を摘み取って、よく手で揉みながら匂いを嗅いでみると、日本のヨモギとよく似ている匂いで、肝心のヨモギの葉の裏を見て、これは大丈夫。このヨモギは日本のヨモギと遜色なく、もぐさの原料として充分使えると確信しました。タマンさんの家に帰り早速、一行に私なりの鑑定結果を報告し、山を下りにすることにしました。ホテルに着く頃にはカトマンズの街もすっかり日が落ちて、家路を急ぐ人達が薄暗い街頭の道を歩く姿が今も目に浮かびます。今日のこの一日は、十年余り経つ今でも、私の忘れぬ事の出来ない思い出一コマとして鮮やかに思い出されます。そして前回号にカトマンズにもぐさ工場が建設された記事を掲載しておりましたが、これで十有五年の歳月を経て、やっとヒマラヤの地にお灸の煙がたち昇ることができるようになり、不肖の愚かな追憶の筆を置くことが出来ました。(完)

4回に分けて掲載いたしました弊社会長のネパール探訪記。長らくのご拝読ありがとうございました。

## 本社工場見学来訪

12/1に稼働したばかりの新工場の記念すべき工場見学のかた

12/4 東洋医療専門学校 60名様

が新工場第1号の見学校でした。しかも、もぐさの生産時期は12月からの冬季限定。この期間しかフル操業は見られません。しかも石臼で挽く時のヨモギの匂いや出来たてのもぐさを触れて、しかも製造時の粉塵のおまけ付き。この製造時期だけの特典です。

工場見学をご希望の方、まずはお電話を。



お灸のイメージポスター「灸極の癒」作成しました。待合室などに掲示をご希望の方はお取引の医療器販売店までお問い合わせください。

**お知らせ**  
社屋移転に伴い左記に住所が変更いたしました。電話番号・ファックス番号に変更はありません。住所変更登録のほどお願いいたします。  
新住所  
滋賀県東浅井郡浅井町三田一三六七の八